

国労本部電送 No. 221	発信日 2025年6月19日	発信 企画部	責任者	受領者
-------------------	-------------------	-----------	-----	-----

指示第64号
2025年6月19日

エリア本部
各 執行委員長 殿
地方本部

国鉄労働組合
中央執行委員長 松川 聡

(一財) 国鉄労働会館主催

「交通運輸関連労働者を対象とした中央労働講座」の受講について

(一財) 国鉄労働会館はこれまで、労働者の相互親睦と福利厚生など生活と福祉の向上に努力を重ねるとともに会館事業として労働組合の基礎学習や各種調査・研究を行ないながら、労働・雇用問題や平和学習、鉄道・交通政策などをテーマに幅広く労働講座を開催してきた。

こうしたなか、今年には1945年8月に広島と長崎に投下された原爆によって多くの尊い命が一瞬にして奪われてから80年の節目を迎える。

第二次世界大戦終結の翌年の1946年から1958年にかけて、アメリカは広島・長崎の原爆投下に続き、太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁などで67回もの核爆発実験を行った。なかでも1954年3月1日にアメリカがビキニ環礁の実験場で炸裂させた水爆『ブラボー』は、広島に落とされた原爆の1,000倍の破壊力といわれ、当時、爆心地より160キロ東方の海上で操業中だった静岡県焼津港所属の遠洋マグロ漁船「第五福竜丸」に降り注いだ『死の灰』(放射性降下物)を浴びた乗組員23人は全員被ばくし、半年後には無線長の久保山愛吉さんが亡くなった。その後もビキニ環礁周辺で繰り返された核実験により、被爆した多くの島民がガンや甲状腺異常、死産や先天的に障がいを持つ子どもが生まれるなどの深刻な健康被害を受けたが、2010年7月、ユネスコは人類が犯した負の歴史を忘れないための「遺産」としてビキニ環礁を世界文化遺産に登録した。

いま、広島・長崎の被爆者の平均年齢は85.58歳(2024年3月現在)といわれ、みずからの体験を直接語ることができる被爆者はさらに減り続けている。被爆体験の継承が課題となる中、被爆者が中心となってきた運動を文字通り、社会全体が継承者となる運動へと広げていくことが問われている。

こうした観点から、一般財団法人・国鉄労働会館のご理解により、原水禁運動の原点と平和の尊さについてあらためて認識を深めるため、添付ポスターの学習会を開催することとなった。したがって、各エリア・地方本部においては積極的に受講者を募らりたい。

記

1. テーマ 「ビキニ被爆と平和の語り継ぎについて」
2. 講師 市田 真理さん (『東京都立第五福竜丸展示館』学芸員)
3. 日時 2025年7月28日(月)9時~10時
4. 会場 交通ビルB1F会議室
(東京都港区新橋5-15-5 ☎03-5403-1640)
5. 定員 交通運輸産業労働者を対象に100名の募集
6. 対象者 第94回定期全国大会構成員及び傍聴者

以 上